

会 議 録

会 議 名	平成 29 年度 第 1 回図書館協議会
開 催 日 時	平成 29 年 7 月 18 日 午前 9 時 30 分～10 時 40 分
場 所	辰野町立辰野図書館 2 階 202 号室
出 席 者	委員 6 名中 6 名、事務局 3 名 計 9 名
会 議 次 第	<p>進行 生涯学習課長</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会のことば 2. 委嘱状交付 3. 教育長あいさつ 4. 自己紹介 5. 協議事項（進行 会長） <ol style="list-style-type: none"> 1) 平成 28 年度図書館利用状況について 2) 平成 29 年度蔵書点検結果報告 3) 平成 29 年度図書館事業について 4) その他 図書選定について 6. 閉会のことば
会 議 結 果	<ol style="list-style-type: none"> 2. 委嘱状交付 1 名（山寺委員） 5. 協議事項（進行 会長） <ol style="list-style-type: none"> 1) 平成 28 年度図書館利用状況について 2) 平成 29 年度蔵書点検結果報告 3) 平成 29 年度図書館事業について 4) その他 図書選定について <p>1)～4) について、事務局から一括説明し、質疑を経てご了承いただく。</p>
発 言 者	発言の内容
会 長	協議事項 1) から 4) まで、事務局から一括して説明があったが、質問などお出しただきたい。
B	先ほどの自己紹介で、正規職員 1 名は再任用ということだった。再任用職員の仕事は今まで通りということなのか？
該 当 職 員	<p>その通りだ。3 月まで図書館にお世話になり、その後 4 月からは、再任用という身分で辰野図書館勤務となっている。</p> <p>この場で申しあげることかどうか憚られるが、辰野図書館には年間で 6 万人以上の来館者がある。そのような施設の責任者が再任用職員であるという実情は、いかななものかと、日々感じざるを得ない。</p>
B	再任用職員となると、任用期限が限られている。仕事を引き継ぐ職員を作ってほしいと考えるがどのような状況なのか。
会 長	図書館運営にとって、大事な課題だ。教育委員会事務局から、現状についてご説明いただきたい。

教 育 長	辰野町だけでなく、どこの市町村も同じ状況だ。他の市町村も同様に頭を抱えている。辰野町でいえば、図書館だけではない。採用の基準などもあり、なかなか厳しい状況だ。
課 長	自分がこちらに配属になる随分前から要望をあげている。困るのは町なのだと思うが、職員をつけてもらえない。毎年言っているが通らない。
B	こういう職場の仕事は、ある意味専門職であり、いきなり交代するのは無理ではないか。今から対策を考えるべきではないのか。
A	是非、議会からも援護していただければありがたい。
C	役場職員の中に、回してもらえる職員はいないのだろうか。築き上げてきたものを継続していくという意味で、大変深刻な問題だと思う。
課 長	司書資格を持つ職員がいるが、人事を掌握する部署の考えもあって、回してもらえないのが実情だ。生涯学習の分野では、図書館だけでなく、美術館、文化係で同様の課題を抱えている。
A	最終的には財政の問題にあると思う。優先順位は町の裁量だが、そこに働きかけていって、いい方向に回していかなければいけない。
教 育 長	除籍について、除籍数や方法を知りたい。 というのは、先般開校した、つくば開成学園高等学校辰野本校には、図書室が設けられているが、図書がまだまだ足りない状況だった。副校長の話では、読み終えた本を募っているとのことだが、図書館の除籍本を、つくば開成に回すことができればいいと思う。
事 務 局	除籍は、受入数とほぼ同じ数になるよう毎年処理している。受け入れ数字の古い物から、利用状況や、類書・代替え資料の有無などを判断基準としている。 毎年、町民への払い出しの前に、小中学校、保育園などへ連絡して、利用できそうな資料を持って行っていただいている。そういう形であれば、つくば開成学園にも連絡差し上げることは可能だ。 図書館には、本の寄贈の申し出が頻繁に寄せられる。図書館で受贈できる資料は限られているが、そういう方たちの申し出からは、自宅にある全集や美術書などを処分できず持て余しているという印象を受ける。広く一般に呼びかければ、かなりの数の図書が集まるのではないだろうか。
B	図書選定について、他の方の希望を図書館に伝えることも可能かどうかお聞きしたい。
事 務 局	どういう形であっても、こちらにつないでいただければ対応したい。年間8万冊が出版される状況で、職員が把握しきれない部分をカバーしていただけるとありがたい。
C	図書館事業の中で、利用団体支援が掲げられているが、具体的に資料紹介などを行っているのかどうか。
事 務 局	利用団体支援の主な内容は、会場提供だ。いずれの団体も、この202号室を使って、それぞれ独自に資料を調達して定例の勉強会を行っている。 平出読書グループは、ボランティア作業を定例会に組み込んで下さっている。 昔ばなし大学は、伝承されてきた昔ばなしを、今の子どもたちに語れるように再話する作業を行っているが、その際、図書館の『全国昔話資料集成』や、『長野県方言辞典』などを提供している。 3年前までは、源氏の会が図書館を会場として活動していたが、町民企画講座に切り替わってから、参加者数が増加し収容しきれないとのことで、町民会館に会場を移したという経過がある。

<p>会 長</p>	<p>東京の集まりに参加したので、図書館に関わりのある話題を二つほど話したい。</p> <p>一点目は、出版業界の状況についてだ。岩波書店が今経営難に陥っており、神田の岩波ブックセンターが破産した。筑摩書房も経営が厳しい状況と聞く。どちらの出版社も、学術書出版や個人全集刊行など、いわゆる堅い本を出版してきた。日本の文化の拠りどころともなり、文化を支えもしてきた出版社だ。そういった出版社の経営が困難になってきているということは、出版業界だけの問題ではなく、大変な問題が進んでいると実感している。新聞でいえば朝日新聞など、保守的な方々から敬遠されるメディアの衰退も顕著で、大変危惧される状況ではないだろうか。図書館にも深く関わりのある問題ではないかと思っている。</p> <p>二点目は、8/5の図書館の講演会に関してお話ししたい。一昨年、図書館のナイトライブラリーで、被爆した子どもたちの手記『原爆の子』について、話をさせていただいた。この手記を寄せた子どもたちのうち、存命中の方にお話を聞くことができたが、生き残っている方はわずかになってきている。被爆者は、高齢に加えて健康状態も憂慮される。</p> <p>今日ここに持参した『広島第二県女二年西組一原爆で死んだ級友たち』の著者関千枝子さんは、たまたまその日体調が悪く登校しなかったことで死を免れたが、たった一人生き残ったことへの負い目や、原爆投下で亡くなった同級生のことを、この本の中で書き著している。この方は農山漁村文化協会から『この国は恐ろしい国』というルポルタージュも出版している方だ。</p> <p>今、戦争の生き証人、戦争の語り部が高齢化している。講師の招聘についてお手伝いもできるので、機会があればぜひこういう方を招いて、話を聞く機会を作っていただけたらと思って紹介した。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>辰野図書館は、7月8月を、戦争を知る月間と位置付けて、毎年テーマ展示を含めて取り組みをしている。辰野町は平和都市宣言をしていて、先の議会でも一般質問に取り上げられた。町長は、「自ら旗を振るのではなく、取り組みを支援していきたい」と答弁している。図書館としては、来年度以降も、7～8月を中心に積極的に取り組んでいきたい。</p>
<p>会 長</p>	<p>全体を通してご意見などなければこれで閉会としたい。 熱心にご協議いただきありがとうございます。ありがとうございました。</p>